

【明治時代の農機具】

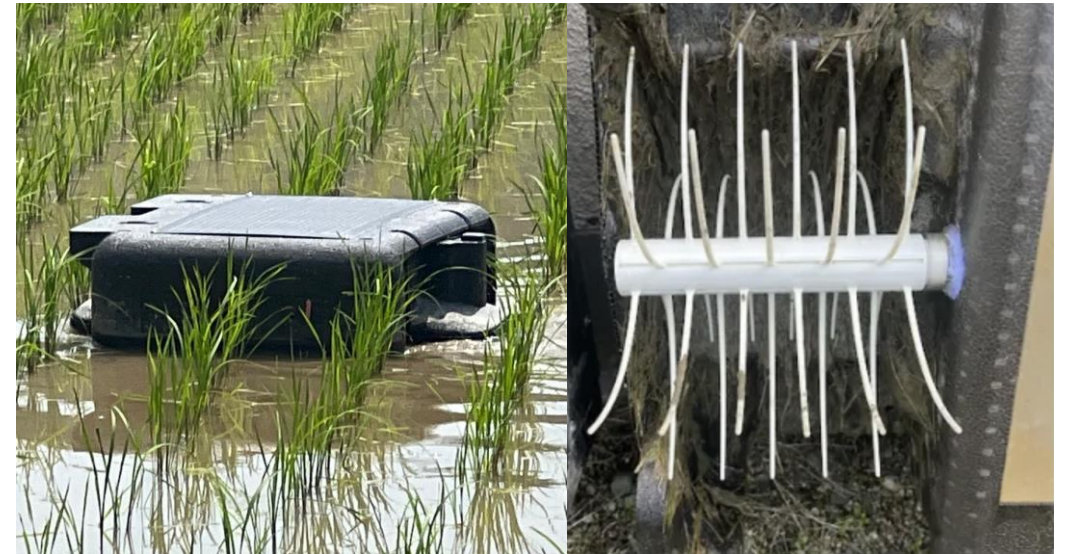
新型アイガモロボの前進か？雁爪という新型アイガモロボのブラシに似た農機具があった



教草第一 稲米一覧 明治6年発行



「田植えより後、雁爪、小鋤 或いは鉄鉞(てつまぐわ)にて稲の根元の泥土を砕き、凝固せしめず、数回如是なせば、目に見えざる草根までも取除いて、稲の根の周囲をかき混ぜし其泥土を動かすを以て、稲株のひげ根其勢いを得て十分に延蔓し、よく繁茂する」



【新型アイガモロボ10月西表島発売前最終実験 田植え後3週間(本州の4～5週間相当)】

稲丈53cmまで稼働し実験終了(雑草、ジャンボタニシ被害、畦際の苗抜け無)



アイガモロボ圃場



アイガモロボ無し圃場



アイガモロボ圃場引き上げ時稲丈

【新型アイガモロボ10月西表島発売前最終実験 台風18号時】



【新型アイガモロボ10月西表島発売前最終実験 生物多様性】



【新型アイガモロボの開発改善活動:ブラシの改善】

2024年6月11日

安価版実証レポート【ブラシの素材を変更】

安価版アイガモロボをの実証を日本全国各地で行っています。
ご協力いただいている農業者の皆様からのフィードバックをもとに、
ブラシの素材・形状について検討を重ね、耐久性と苗への
優しさを両立する新ブラシを開発しました。
今後も全国の農業者の皆様と連携し、発売に向けた改善を進めてまいります。

新ブラシの特徴

- ・楕円形状で横曲がりしない形状に改善
- ・根元が太く先が細い形状で絡んだ稲藁などが抜けるように改善
- ・耐久性と苗抜け性のトレードオフを両立する新素材を採用

これまでのブラシ

稼働により変形、雑草が付着



新しいブラシ

変形無し、雑草が付着しづらい

